

問題

政府が財政政策を行う際に生じる、政府支出のクラウディング・アウト効果に関して、IS-LM 分析を用いて、次の問いに答えなさい。なお、IS 曲線、LM 曲線は以下のように定義する。解答に当たっては、図を用いて説明すること。

IS 曲線： $Y=C(Y)+I(r)+G$

LM 曲線： $M=L(Y, r)$

$\left[\begin{array}{l} Y: \text{国民所得}, C: \text{消費}, I: \text{投資}, G: \text{政府支出} \\ M: \text{貨幣供給}, L: \text{貨幣需要}, r: \text{利子率} \quad (0 < r < 1) \end{array} \right]$

- (1) 政府支出のクラウディング・アウト効果について、一般的にどのような効果をいうか説明しなさい。
- (2) 流動性のわなの状態では、政府支出拡大の際、クラウディング・アウト効果が全く生じないが、クラウディング・アウト効果が全く生じない理由について、流動性のわなとはどのような状態かにも触れつつ、説明しなさい。また、流動性のわな以外にクラウディング・アウト効果が全く生じない状態とはどのような状態か説明しなさい。
- (3) 政府支出拡大の際、完全なクラウディング・アウト効果が生じる場合とはどのような状態か説明しなさい。

解答のポイント

今年度は、IS-LM モデルからの出題であり、昨年に引き続き、2 年連続でマクロ経済学からの出題となった。

小問(1)および小問(2)については、いわゆる典型論点であったため、非常に平易な問題であり、図を用いて、クラウディング・アウトが発生する仕組みを丁寧に説明すればよい。

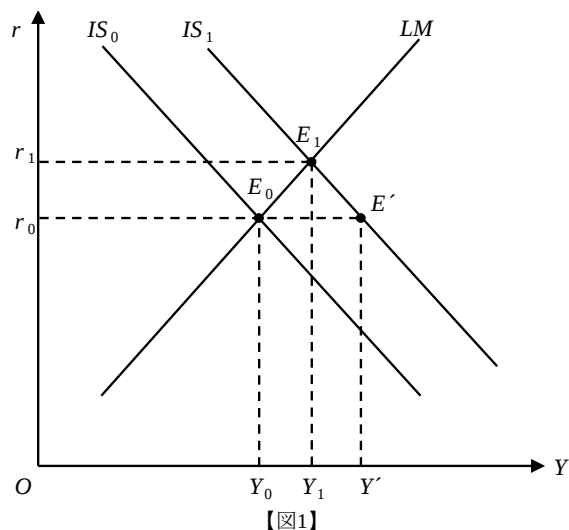
しかし、小問(3)の出題については、やや解答しづらかったかもしれない。「出題者の意図」を考慮するに、小問(2)における「垂直な IS 曲線および水平な LM 曲線の場合、クラウディング・アウト効果が生じない」という枠組みを踏まえて、「水平な IS 曲線と垂直な LM 曲線の場合、完全なクラウディング・アウト効果が生じる」ということを記述させたかっと思われる。しかしながら、そもそも垂直な LM 曲線とは、小問(2)の流動性のわなの論点との関連で考えると、「貨幣需要の利子弾力性がゼロ」の場合の LM 曲線であり、これはケインズの流動性選好説を前提とした IS-LM モデルの枠組みでは一般的に想定されないモデル設定となる。いやしくも、「流動性選好説ではなく、貨幣数量説および貸付資金説を前提に完全なクラウディング・アウト効果を考えさせる」ことを意図したのであれば、設問中にそれを暗示させる設定を置くべきだったのではないだろうか。つまり、小問(3)の論点は、専門扱一での出題においては「一応の」解答を出すことができるが、「経済理論を正しく説明させる」記述式の出題においては、非常に解答しづらい論点であった。よって、小問(3)は、この採用試験のために「しっかりと経済理論を勉強してきた」受験生であればあるほど解答に窮する問題であり、「一応の」結論のみをつかんできた受験生にとっては非常に解答しやすい問題であった。

ひとまず、解答例では、「出題者の意図」を汲み取ったうえで、解答を作成している。

(1) クラウディング・アウトとは、政府支出拡大により貨幣の取引需要が増加し、これにより、利子率が上昇して投資が減少してしまう効果のことをいう。

横軸に国民所得 Y 、縦軸に利子率 r をとる図 1 において、財市場が均衡する際の Y と r の組合せの集合である IS 曲線と、貨幣市場が均衡する際の Y と r の組合せの集合である LM 曲線を描き、当初の均衡点を E_0 とする。

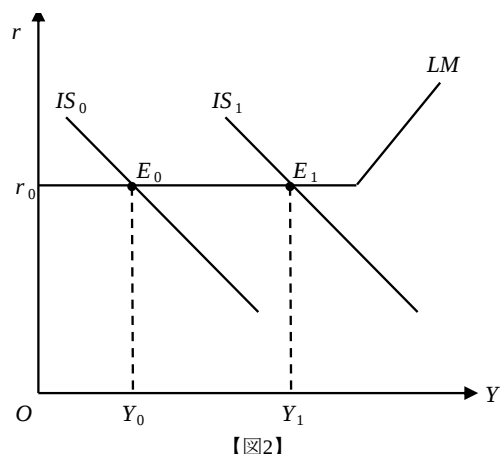
政府支出の拡大により、利子率一定の下で財市場の均衡国民所得が Y に増加するので、 IS 曲線は点 E' を通るように IS_1 に右シフトする。このとき、貨幣市場の超過需要により、利子率が上昇し、投資が減少するクラウディング・アウトが生じ、国民所得が減少する。結果として、新たな $IS-LM$ 均衡は点 E_1 となり、国民所得が Y_1 に増加し、利子率が r_1 に上昇する。この図において、 $(Y - Y_1)$ がクラウディング・アウトによって減少した投資がもたらした国民所得の減少分となる。(376 字)



(2) クラウディング・アウト効果が全く生じない場合、(i)貨幣の取引需要の増加により利子率が上昇しないこと、(ii)利子率の上昇によって投資が減少しないこと、のいずれかが満たされている。

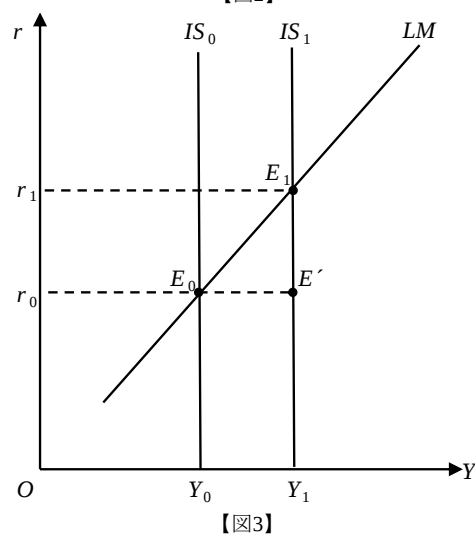
まず、流動性のわなとは、利子率が最下限に達し、貨幣と債券が完全代替的になり、貨幣需要の利子弾力性が無限大 (LM 曲線が水平) になっている状態のことをいう。図 1 と同様の図 2 を用いて、流動性のわなの状態において、クラウディング・アウト効果が生じないことを説明する。

政府支出の拡大により、問(1)と同様のプロセスを経て、 IS 曲線が IS_1 に右シフトする。このとき、国民所得の増加に伴い貨幣需要は増加するが、貨幣需要の利子弾力性が無限大であるため、貨幣市場の均衡に要する利子率の上昇分は限りなくゼロとなる。よって、投資の減少分も限りなくゼロとなるため、クラウディング・アウト効果はほぼ生じない。



また、投資の利子弾力性がゼロ (IS 曲線が垂線) の場合においても、クラウディング・アウト効果は生じない。

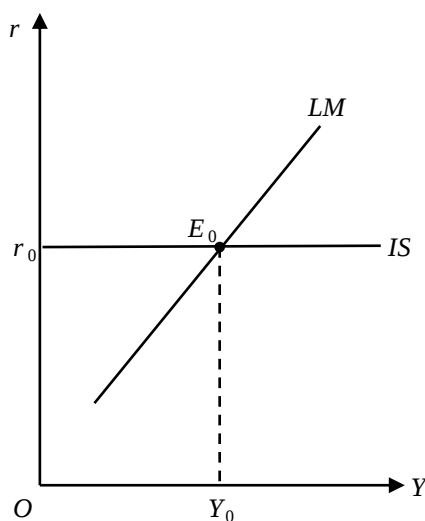
図 1 と同様の図 3 において、政府支出の拡大により IS 曲線が IS_1 に右シフトする。このとき、(1)と同様のプロセスで、利子率が r_1 に上昇する。しかし、投資の利子弾力性がゼロであるため、利子率が上昇しても投資が減少せず、結果として、クラウディング・アウト効果は生じない。(547 字)



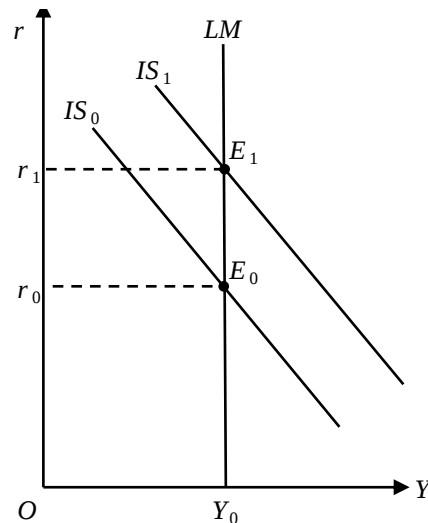
(3) 問(2)の結果をもとに完全なクラウディング・アウト効果が生じる場合を考えると、(i)IS 曲線が水平となる場合と(ii)LM 曲線が垂線となる場合のいずれかの場合であることが分かる。

まず、図 4 において、IS 曲線が水平となる場合、政府支出を拡大しても、新たな IS-LM 均衡は点 E_0 のままであり、国民所得は増加しない。よって、完全なクラウディング・アウト効果が生じることが分かる。

次に、図 5 を用いて、LM 曲線が垂線となる場合を考える。ここで、IS 曲線が IS_1 に右シフトしたとき、新たな IS-LM 均衡は点 E_1 となり、利子率のみが上昇し、国民所得は増加しない。よって、このケースにおいても完全なクラウディング・アウト効果が生じることが分かる。(290 字)



【図4】



【図5】

以上 (1213 字)

TAC 生はココで解けた！

専門記述対策レジュメ p.78 の問題 23 において、同じテーマを取り扱っている。これを解いた上で、IS-LM モデルの諸論点（弾力性と経済政策の効果の関係など）を復習していれば、少なくとも小問(1)および小問(2)は解答できたであろう。